

牛久：学校周辺に見る自然

第10号 牛久二小（ひたち野うしく小）

2011年5月18日発行

＜ ビオトープ周辺の観察から ～ アブラナ科の仲間 ＞

牛久二小3年2組が4/22にモンシロチョウの卵集めをかねて、そして5/6には3年1組が春の生き物探してビオトープ周辺を観察しました。そこで今回は、それらの中からアブラナ科の仲間を集めてみました。どうしてナズナは、春早くに花を咲かせられるのか、またアブラナ科に共通して、どんな特徴がみられるか、考えてみましょう。

（1）ナズナ



春の七草でもおなじみのナズナ。摘み草をするのはまだ茎が伸びてこない、ロゼット（地べたにはりつく葉）の時期です。秋に芽を出してロゼットで冬を越し、春にぐんぐん大きくなって花を咲かせ実をつけて種子を落とすのです。

そして他の草が茂っている夏を種子で眠ったまま過ごして、秋に目をさまして芽生えるということくり返します。実の形が三味線をひくバチに似ているので「ペンペン草」という別名もあります。決して、お尻をペンペンするからではありませんよ。

（2）アブラナ



黄色い「菜の花」を見ると、どれも「アブラナ」と思いがちですが、結構似てて別の「菜の花」であることも多いです。おなじみの野菜の花を下に並べてみましょう。違いがわかりますか？

正解は左から

キャベツ、カリフラワー、チンゲンサイ、ハクサイ、そして、ひたち野うしく小裏にあったセイヨウカラシナ。





左の写真は、料理に使ったハクサイの、ふつうは捨^すててしまうしんの部分ですが、水をまめに取りかえながら育てていたら花が咲いたものです。似たようなことは、ダイコンでもキャベツやニンジンなど他の野菜でも簡単^{かんたん}にできますよ。これはこれで、なかなかきれいなものです。あなたも、やってみませんか？

(3) タネツケバナ

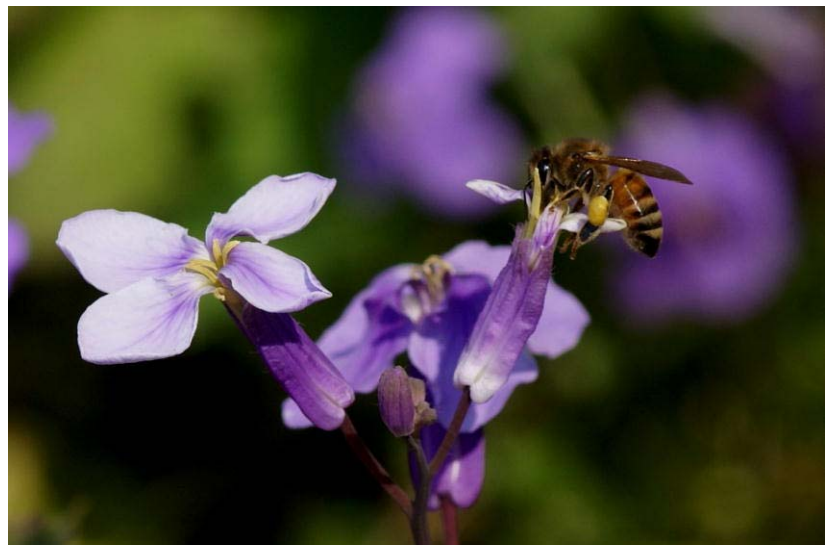


以前は、この花の咲く頃^{ころ}にイネのたね（もみ）を水につけて田の準備したといわれ、そこからついた名のようにです。ただ、いまは冬に田の水をぬいておくことが多いので、田んぼより畑や校庭などで見か

けることが多くなったように思います。

農作業の目安として利用した植物は、他にもいろいろあるですよ。調べてみませんか？

(4) ムラサキハナナ



最後にムラサキハナナ（紫花菜）です。ショカツサイ（諸葛孔明が広めたとされ、諸葛菜）とか、オオアラセイトウ、ハナダイコンなどという別名もあります。ただし、別種で「ハナダイコン」があるので混乱しやすく、ムラサキハナナにハナダイコンの名は使わない方がよいでしょう。写真のセイヨウミツバチなどハナバチの仲間やハナアブの仲間が盛んに訪れ、蜜を吸っていましたね。

さて、アブラナ科の花の特徴に気がつきましたか？ 花の色は黄色、白、紫といろいろでしたね。でも花のつくりはどれも同じで、4枚の花弁が十字につくので「十字花科」と呼ばれることもあります。また果実は二つに仕切られ、成熟するとそこから二つに割れて種子がこぼれ落ちます。ナズナの種子は、一つの果実に何個くらい入っていると思いますか？ 数えてみましょう。【理科支援員 宮内】